

VU (絶滅危惧Ⅱ類)

サケ目 サケ科

カテゴリー判定基準：A-2

オショロコマ

Salvelinus malma krascheninnikovi Taranetz, 1933

旧レッドリストカテゴリー		
1991	1999	2007
R	NT	VU

河川残留型は体長30cmほどであるが、降海型は体長80cmになる。体側には朱赤色の斑点、背部には白色の小斑点が散在する。日本では北海道のみに分布し、山岳地帯の河川の源流部や湧水河川の上流に生息する。また、知床半島や標津地方では源流部から河口域まで連続して生息する。森林伐採やダム建設、遊魚者の増加により減少傾向にある。世界遺産に登録されている知床半島では、砂防ダムなど河川工作物の改良が進められている。

A river resident type of southern Dolly Varden, *Salvelinus malma krascheninnikovi*, is about 30cm in length and this anadromous type reaches 80cm in length. In Japan, the species is distributed only in Hokkaido and inhabits the headwaters and upstream of rivers in mountainous areas. In addition, it inhabits continuously from the headwaters to the estuary in the Shiretoko Peninsula and Shibetsu region. The southern Dolly Varden populations tend to decrease due to deforestation and dam construction and recreational fishing. Improvement of river constructions such as check dams has been promoted in the Shiretoko Peninsula designated as a UNESCO World Heritage site.

基礎情報

■**形態** 河川残留型は体長30cmほどであるが、降海型は体長80cmになる。上顎の先端は下顎にかぶさる。体側には5~10個のパーマークと朱赤色の斑点が散在する。また、背部には小さい白色の斑点が散在する。降海型は降海時に体側のパーマークが消え、朱赤色の斑点が白くなる。側線鱗数105~142枚、鰓耙数11~26本。

■**分布域** 日本国内では北海道のみに分布し、知床半島、大雪山系、日高山系及び天塩山系などに生息する。また、北海道西南部や日本海側の分布は数河川に限定される。国外では沿海州、サハリン、カムチャツカ半島、アラスカからカリフォルニア北部まで北太平洋北部地域に広く分布する。

■**生息環境** 日高・大雪山系より南では山岳地帯の河川の源流部あるいは湧水河川の上流部のみに生息する。一方、知床半島や標津地方では源流部から河口域まで連続して生息する。

■**生活史** 河川残留型と降海型があり、北海道ではほとんどが河川残留型である。知床半島で

は降海型がわずかに出現する。繁殖期は10~11月で、メスは自分よりも大きなオスとペアになり、砂礫の川底に産卵床をつくって産卵する。産卵中に数尾の小型のオスが産卵床に侵入し、放精することが多い。メス1個体の産卵数は50~270粒である。産卵後も死亡せず生き残り、数年にわたって繁殖を繰り返す。産卵の翌年の4月頃に尾叉長2cmほどの稚魚が産卵床の小石礫の間から泳ぎ出て、晩秋までに7cmほどの大きさになる。その1年後に12cm、3年後に17cm、5年後に20cmほどに成長する。オスが1歳で、メスは2歳で繁殖を始める。餌は底生動物で、とくに水生および陸生の昆虫である。オショロコマの口は近縁のアメマスと異なり、やや下を向いているので、底生動物を捕食するのに適している。

現在の生息状況

■**分布域の現況** 知床半島では92水系のうち64水系で、それ以外の北海道では28水系で生息が確認されている。北海道南部の5河川と1ダムにおいて、1975~87年にオショロコマが移殖され、数河川で自然繁殖している。2009年に、釧路川の支流であるチャランケンナイ川でも生息が確認された。

■**生息地の現況** 知床半島では森林伐採や河川工作物の設置により、河川の水温が上昇している。

■**個体数の現況** 石狩川、天塩川、沙流川などの源流域や知床半島では減少傾向にある。また、個体群が極めて小規模である道南西部では、生息数がかなり減少している。

存続を脅かす要因

知床半島では砂防ダムなど河川工作物の建設(25)や森林伐採(11)による河川の水温上昇によって減少している。また、石狩川、天塩川、沙流川などの源流域や知床半島では森林伐採(11)やダム建設(25)、遊魚者の増加(41)により減少傾向にある。さらに、個体群が極めて小規模である道南西部では、遊魚者の増加(41)により生息数がかなり減少している。

保護対策の現状

2005年に世界遺産に登録された知床半島では、サケ科魚類の遡上を阻害している河川工作物が存在する箇所を選定が行われ、砂防ダムのスリット化や魚道の設置など改良が進められている。

特記事項

Salvelinus malma は分布の西端付近では、北方系の *S. malma malma* (Walbaum)、南方系のオシヨロコマ (*S. malma krascheninnikovi* Taranetz)、及び湖沼適応型のミヤベイワナ (*S. malma miyabei* Oshima) の3亜種に整理されている。

参考文献

- 尼岡邦夫・仲谷一宏・矢部衛, 2011. 北海道の全魚類図鑑. 北海道新聞社, 札幌. 482pp.
- 細谷和海, 2000. サケ科. 中坊徹次(編), 日本産魚類検索: 第二版, pp. 299-304, pp. 1475-1476. 東海大学出版会, 東京.
- 石城謙吉, 1984. イワナの謎を追う. 岩波書店, 東京. 216pp.
- Kishi, D. and K. Maekawa, 2009. Stream-dwelling Dolly Varden (*Salvelinus malma*) density and habitat characteristics in stream sections installed with low-head dams in the Shiretoko Peninsula, Hokkaido, Japan. *Ecol. Res.*, 24: 873-880.
- 小宮山英重, 2003. オシヨロコマ. 環境省自然環境局野生生物課(編), 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-4汽水・淡水魚類, p. 183. 自然環境研究センター, 東京.
- 小宮山英重, 2003. オシヨロコマ. 斜里町立知床博物館(編), 知床の魚類, pp. 19-27. 斜里町・斜里町教育委員会, 斜里町.
- 久保達郎, 1993. 北海道南部の溪流に対するオシヨロコマの移殖. 魚と水, (30): 27-29.
- 中野繁, 2003. 北海道の河川におけるイワナ属2種の分布. pp. 23-47. 川と森の生態学-中野繁論文集-. 北海道大学図書刊行会, 札幌.
- 下田和孝, 2003. オシヨロコマ. 上田吉幸・前田圭司・嶋田宏・鷹見達也(編), 漁業生物図鑑 新北のさかなたち, pp. 122-125. 北海道新聞社, 札幌.
- 谷口義則・岸大弼・河口洋一, 2002. 知床半島東西両岸の37河川における河川性サケ科魚類個体群の現状-特に河川工作物の影響を中心に-. 知床博物館研究報告, (23): 37-46.

執筆者: 針生 勤(元釧路市立博物館)